

第 17 回  
東京都安全・安心まちづくり協議会総会

令和元年 7 月 9 日（火）

都庁第一本庁舎北塔 42 階

特別会議室 A

午後 2 時 31 分開会

○治安対策担当部長 それでは、ただいまから第 17 回東京都安全・安心まちづくり協議会総会を開会いたします。

それではまず、東京都安全・安心まちづくり協議会の会長でございます、小池都知事よりご挨拶申し上げます。

○都知事 皆様、こんにちは。

梅雨のさなかでございますが、本日ご多用のところお集まりいただきました皆様方に、まず心から御礼申し上げます。また、委員の皆様におかれましては、都の安全安心まちづくりに御理解・御協力を賜っておりますこと、厚く重ねて御礼申し上げたいと存じます。

そして、皆様の日頃の地道な取組が都内の治安状況を改善させていることは事実であり、また、都民の防犯意識の向上などにも取り組んでいただいております、着実にその部分は進行しているかと思えます。皆様方の御努力に対しまして、改めて感謝を申し上げます。

また、この先も東京が成長して、成熟した都市となるためには、やはり大前提は安全安心の確保かと存じます。東京は様々なランキングの中で、いつも高位を占めております。時には 1 位、時には 2 位、時には 3 位でございますが、都市間競争の中でニューヨークやパリ、ロンドンといったところと比較して、このランキングで、何の項目でこの東京が上位を占めているかという、その項目の 1 つにやはり安全安心ということでございます。その意味でも、東京の安全安心というのは皆様方の御努力による賜物ということ、また、これを決して無くしてはいけないということ、その思いでいっぱいでございます。

特に、未来を担う子供さんへの犯罪対策というのは極めて重要でございます。今年の 5 月には、川崎市で子供さんが並んでいるところで連続殺傷事件が起こるなどという悲惨な事件がございました。それから、登下校をする子供たちに対しましての防犯プラン、「登下校防犯プラン」という計画がございまして、これによりまして、登下校の区域などで防犯カメラの設置促進を強化いたしました。また、これまで設置に対する経費の補助を出しており、だんだんそれが普及をしてきたことはよいことではありますが、今度は補修が必要になってきておりまして、今年度からはその防犯カメラの補修ということについても予算の計上・補助を開始したところでございます。

それから市民ランナーの皆様方や事業者による子供の見守り活動ということも促進をして

いるところでございます。今後も学校関係者など、さまざまな方々の御協力を得まして防犯力を高める取組をさらに強化をしてまいりたいと考えております。

それから、先だってもタイでアジトが見つかった、なかなか減ることのない、特殊詐欺でございますけれども、これについても、効果的と言われております、自動で通話を録音する機械、これの設置を促進するなど、対策には一段と力をいれてまいりたいと考えております。

それから、最近私が大変気になっておりますのは、家庭内の痛ましい事件がここへきて極めて多いことです。昨日は東京の老舗の和菓子店、そしてその前は、私も存じ上げている某省の事務次官をされた方が、ひきこもりと考えられる息子さんを殺めるだとか、毎日そのようなニュースを目にします。こういう痛ましい事件が家庭内で起こる、ということについては、まさしく社会的な問題として、全体的にその病理、それからひきこもりの問題、社会の変化、そういったところから、総合的に一度しっかり分析をしていく必要があるのではないかと思います。社会全体が病んでいるようでは外であろうが、内であろうが、やはり安全安心が傷ついてしまうと、非常に悲しく思っているところでございます。

一方で、楽しいニュースもございます。いよいよ来年の2020年大会が、今日から数えますと、開会まで381日ということになります。パラリンピックにつきましては413日。そして忘れてはいけません。今年の9月20日には、ラグビーワールドカップが、まずは多摩の方で開会式・開幕戦が行われます。あと73日でございます。そして、今日のこの協議会でございますが、最近のテロ情勢と対策の講演も設定しております。このメガイベントの間、都民や来訪者の皆様方の安全安心を確保してこそ、大会の成功と言えるかと存じます。そして、このベースに、「地域の安全点検事業」を展開してまいりたいと考えておりますので、どうかお力添えのほど、よろしく願いを申し上げます。

協議会・区市町村・都民、この皆様方が底力となって安全安心のまちづくりを支えていただいております。皆様方と手を携えまして、3つのシティのうちの一番目のセーフシティ、誰にとっても安全安心な都市・東京、これを実現してまいりたいと考えております。

長くなりましたが、日頃の皆様方の御協力に対する御礼、そして今後の取組についての考え方など、申し述べさせていただきました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、ご議論のほど、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○治安対策担当部長 続きますして、会長代行でございます、三浦警視総監よりご挨拶申し上げます。

○警視総監 警視総監の三浦でございます。皆様方には平素から犯罪の抑止を初め、安全・安心まちづくりに多大なるご尽力をいただき、また警視庁の業務の各般にわたり深いご理解とご協力を賜り、この場をお借りいたしまして厚く御礼を申し上げます。

さて、都内では平成14年に約30万件であった刑法犯の認知件数が16年連続して減少し、昨年は約11万4,000件と、戦後最少を更新しました。こうした成果は、私ども警察だけではなく、本日ご列席の皆様方をはじめ、行政機関や関係団体、住民の皆様が地域の根差した諸活動の賜物であり、改めて皆様方の活動に対し、謝意を表する次第であります。

数字の上では治安は着実に改善しておりますが、東京都で実施しております都民生活に関する世論調査では、特に力を入れてほしいこととして治安対策が常に3位以内に入っております。都民の皆様が安全・安心を願うお気持ちは極めて大きいと考えております。

とりわけ、先ほどの小池知事のご挨拶にもございましたけれども、神奈川県下で通学バスを待っていた児童等を狙った殺傷事件などの痛ましい事件も発生しており、治安に対する不安は今なお解消されておらず、課題は多いものと認識しております。このため、警視庁では登下校時における子供の安全を確保するため、大人の目が届かないような危険箇所の警戒、パトロールの強化に加え、集団登校の集合場所やスクールバスの停留所等、登下校の際に子供が集まる可能性のある場所を改めて点検し、見せる警戒活動を強化しているところであります。

また、振り込め詐欺を初めとする特殊詐欺については、いわゆるアポ電をきっかけとした強盗殺人事件なども発生しており、より一層の危機感を持って取り組まなければならない状況が続いております。警視庁では体制を強化して、取り締まりを徹底しておりますが、皆様方にも特殊詐欺防止のため、一層のご理解、ご支援をお願いいたします。犯人の巧みな話術にだまされないためには、高齢者のご自宅の電話を留守番電話に設定したり、自動通話録音機を設置するなど、犯人からの電話に出ないことが一番であります。こうした観点で、引き続き防犯と検挙の両面から効果的な諸対策に取り組んでまいります。

今年の秋にはラグビーワールドカップや天皇陛下のご即位関連行事等が行われ、そして1年後にはいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を迎えます。都民の皆様はもとより、東京を訪れる方々に世界一安全な都市東京を体感していただけるよう、引き続き治安課題に取り組んでまいりますので、協議会の皆様方にはより一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、ご列席の皆様方のますますのご活躍を心から祈念し、私の挨拶といたします。どうぞよろしく願いいたします。

○治安対策担当部長 ここで小池知事、三浦警視総監は公務のため退席させていただきます。

○小池知事 どうぞよろしく願いいたします。

(知事及び警視総監退席)

○治安対策担当部長 議事に入ります前に、会議資料について、ご案内させていただきます。

開会前にもご案内させていただきましたとおり、本日はペーパーレス会議推進のため、お手元のタブレット端末を活用して実施いたします。会議中は進行に沿いましてページを表示させていただきますので、内容をご確認ください。基本的に操作の必要はございません。

あわせまして、机上に本日の出席者名簿、高齢者よろず相談リーフレット、薬物乱用撲滅リーフレットをお配りしてございます。また、タブレット端末の操作方法について、説明資料を配布しておりますので、必要に応じてご確認くださいと思います。

また、本日ご発言をされる際には、誠に恐縮でございますが、挙手をお願いいたします。その際、机上にございますマイクの銀色の部分、右側のスイッチを押してからご発言いただきますよう、お願い申し上げます。

それでは議事に入ります。議事進行は大澤都民安全推進本部長にお願いをいたします。

○都民安全推進本部長 都民安全推進本部の大澤でございます。どうぞよろしく願いいたします。それでは着座にて議事進行させていただきます。

議事次第に従いまして進めさせていただきます。

それでは、東京都安全・安心まちづくり協議会の平成30年度の協議会活動概要報告及び令和元年度の協議会活動方針、活動計画につきまして、事務局から説明をいたします。

○治安対策担当部長 平成30年度の活動概要及び令和元年度の活動計画、活動方針につきまして、事務局からご説明させていただきます。

まず、平成30年度の活動概要につきまして、ご説明をいたします。

資料①には各団体様にご照会させていただいたもののうち、新規の事業について、掲載しております。

また、資料②は、東京都及び警視庁の活動のうち、新規で実施した事業を掲載しております。

新規事業以外にも皆様には様々な活動を継続的に実施していただいております。この場を

お借りしまして御礼を申し上げますとともに、本年度につきましても引き続き東京の安全・安心の向上に向け、ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

続きまして、令和元年度の活動方針、活動計画について、ご説明いたします。

資料③をご覧ください。こちらは令和元年度の活動方針及び計画案となります。

まず1、概要について、ご説明をいたします。これは活動方針、活動計画の策定に当たり、直近の都内の治安状況等と、これを踏まえた具体的な取り組みの方向を示すものでございます。

都内の刑法犯の認知件数が30万件を超え、戦後最悪であった平成14年から、去年は約11万4,000件にまで改善しております。しかしながら、振り込め詐欺を初めとする身近な犯罪のほか、子供の連れ去りや不審な声かけなど、高齢者や子供といった弱者が被害者となる事案は後を絶ちません。都が毎年行っております都民生活に関する世論調査でも、都政に関する都民の要望として、去年は治安対策が第3位となっており、都民の安全・安心に対する期待は非常に高いものとなっております。

また、来年開催の東京2020大会を史上最高の大会として成功させるためにも、安全で安心して暮らせるセーフシティ東京の実現は重要な課題でございます。

安全で安心な東京を実現するためには、これまで以上に関係団体が総力を結集して取り組んでいくことが必要でございます。令和元年度につきましても本協議会の基本方針を策定し、引き続き取り組みを推進してまいりたいと考えてございます。

次に、2、活動方針でございますが、昨年度と同じ、次の三つを掲げております。

一つ目といたしまして、自助、共助の精神による安全安心まちづくりの推進。

二つ目といたしまして、協議会の総力を発揮した安全安心まちづくりの推進。

三つ目といたしまして、総合的な安全安心まちづくりの推進でございます。

3、活動計画では、三つの活動方針のもと、六つの具体的な活動計画を定めさせていただきました。

続きまして、資料④でございます。各団体様からいただきました活動計画のうち、今年度新たに取り組まれる事業、または特に広報したい事業のみ記載させていただきました。このほかにも各団体がそれぞれの事業分野におきまして対策を打ち出しておられますので、ぜひ各団体における取り組みのご参考としていただければと存じます。

都内における安全・安心をさらに確かなものとするため、令和元年度活動方針、活動計画

に基づき、活動を進めていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

次に、資料⑤でございますが、ここでは東京都及び警視庁の主な新規事業を簡単にご紹介させていただきます。

まず、知事の挨拶にもございましたが、地域の防犯意識を高めるため、日常生活で、街の様子にいつもと違う点がないかをよく見ることや、発見した場合の速やかな 110 番通報を都民、事業者の皆様幅広く働きかけるとともに、民間防犯防災活動団体に対しましても、普段の活動にテロ未然防止の視点を加えていただきますよう、お願いしてまいります。皆様におかれましても、ぜひご協力をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。この後、最近のテロ情勢と対策に関するご講演をいただきますので、皆様の取り組みの一助となれば幸いです。

防犯設備維持管理経費補助事業でございますが、地域団体が設置、管理されております防犯カメラの保守点検、修繕に係る経費の一部について、区市町村を通じて補助するものでございまして、これにより地域の防犯力の維持向上に取り組んでおられる地域団体の方々に支援してまいります。

次に、登下校区域防犯設備整備補助事業でございますが、これまで通学路に設置する防犯カメラについて補助しておりましたが、事業をリニューアルいたしまして、通学路に限らず、登下校において安全確保が必要と区市町村が認める箇所への防犯カメラの設置について補助することで、子供の安全対策を推進してまいります。

次に、機動査察隊の運用でございますが、消防庁が歌舞伎町地域において夜間も含めた立入検査を行い、避難障害などを是正し、地域の安全性の向上を図ってまいります。

次に、警視庁が繁華街 6 地区に設置いたしました街頭防犯カメラシステムを一新し、最先端の性能を備えたシステムとする事業に取り組んでまいります。

次に、外国人滞在支援対策でございますが、外国人旅行者に対しまして日本の法律やルール、マナーを教授するリーフレットを作成、配布する予定でございます。

以上となりますが、東京都、警視庁におきましては、本活動計画に沿いまして各団体の皆様と連携し、地域の安全・安心の向上に向け、取り組んでまいりますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後に資料 6 でございますが、令和元年度の都内区市町村の取り組み内容をまとめたものでございます。ファイル一覧からご覧いただけます。

各区市町村とも防犯ボランティアの活動支援や防犯パトロール、街頭防犯カメラの設置、また子供の安全対策や高齢者の安全対策など、地域の実情に応じた安全・安心まちづくりに努めているところでございます。ちょっと今は開いていないかもしれませんが、本資料をご覧いただきまして、それぞれの取り組みへのご理解、ご協力をいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

活動方針、計画案につきましての説明は以上でございます。

なお、本日の議案につきましては、5月29日に開催いたしました幹事会におきましてご了承いただいていることを申し添えます。

○都民安全推進本部長 それでは、ここまでの内容につきまして、ご質問あるいはご要望等ございましたらご発言いただきたいと思います。委員の皆様、何かございますでしょうか。

(なし)

○都民安全推進本部長 よろしいでしょうか。特にご意見等ございませんようでしたら、ただいまの議事につきましてご承認いただくということでよろしいでしょうか。

(拍手)

○都民安全推進本部長 ありがとうございます。それでは、ご承認いただいたとさせていただきます。議事へのご協力ありがとうございます。

○治安対策担当部長 それではこの後、第2部の講演に移らせていただきますが、準備をいたしますので、10分程度、3時5分くらいまで休憩とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(午後2時55分～午後3時04分休憩)

○治安対策担当部長 3時5分までお休みと申し上げたんですけど、もう皆さんお戻りかと思われまので、少々早いですけれども、第2部ということでご講演をいただければと思いますが、タブレットの更新がやや遅れるところがあるかもしれません。大変申し訳ございませんが、ご容赦いただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは大変お待たせいたしました。第2部、講演に移らせていただきます。

まず、講師のご紹介をさせていただきます。本日は公益財団法人公共政策調査会研究センター長の板橋様にお越しいただいております。板橋様はテロリズム問題、組織犯罪、危機管理関係の研究に従事されておりました、これまで防衛大学校非常勤講師、国土交通省先進的警備システム実証実験評価会座長などを歴任されました。また、警察庁、外務省などの研究



プロジェクト、各省庁などの研究会の委員を務められております。

それでは板橋様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○板橋氏 ご紹介ありがとうございます。公共政策調査会、板橋と申します。本日はこのような席でお話させていただくことを大変光栄に思っております。それでは、座ってお話させていただきます。

私は大体 30 年ちょっと、テロの研究をしてきたわけですが、よく言われることが、日本ではテロは起こらないでしょうと。何で、板橋さん、テロの研究なんかしているのということと言われるわけですが、実はこの研究を始めるときに、ちょうど 30 年ぐらい前になりますが、諸外国の研究者の皆さんとお会いして、当時、アメリカやフランスやイギリスでテロの研究をしていた人たちとお会いしたときに言われた言葉が、「日本はテロの先進国だよ」と言われました。最初は意味がわかりませんでした、どういうことかと。話を聞くと、なるほどなと、私自身、納得したわけでありませう。

1970 年代のよど号ハイジャック事件、これはハイジャック事件を、テロとしてハイジャックを行った世界でも先進的な事例であります。世界で初めてと言っていい。政治的目的を持ったハイジャック事件というのは、よど号ハイジャック事件が世界で初めての事件であります。それまで単純亡命、A 国から B 国に行きたいという単純亡命はありましたが、政治目的を持ったハイジャック事件は、実は日本が最初に起こしている。

それから三菱重工本社ビル爆破事件、これは今思えば、大量無差別殺傷テロ事件であります。既に 70 年代に日本で発生していたということでもあります。

それから、数々の日本赤軍による事件、シンガポール・クウェート事件、ハーグ事件、クアラルンプール事件、あるいはダッカのハイジャック事件といった事件が続発しました。日本人テロリスト、今でこそテロ組織の国際連携なんて当たり前になっていますが、実は日本人のテロリストは 70 年代、80 年代から既に国際連携をしてテロ事件を起こしていた、ジョイントして起こしていたんですね。PFLP とか PFLP-GC、これは PLO の下部組織でしたが、よど号ハイジャック。テルアビブ・ロッド空港乱射事件、これは PLO、PFLP に協力する形で行われたわけでありませう。

シンガポール・クウェート事件、これはまさに PFLP とジョイントで起こした事件であります。

それから何と云っても、95 年の地下鉄サリン事件。世界で初めて大都市で化学兵器が用い

られたテロ事件であります。つい最近、オウムの犯人の死刑執行から1年ということで、私も取材を受けましたけれども、地下鉄サリン事件は残念ながら日本政府としてレビューは行われていません。ここが日本の悪いところだと思うんですが、なぜ起こったのかということ政府として検証しなかったというのは大きな問題かなと思っておりませんが、地下鉄サリン事件、95年の3月20日に起こったわけです。

ここで赤字のところを見ていただきたいんですが、3路線5編成の列車、計5カ所。この後に起こるマドリードの列車爆破事件、三つの駅と四つの列車。ロンドンの地下鉄同時多発テロ事件、これはグレンイーグルズ・サミットの最中に起こったわけですが、地下鉄3カ所、バス1カ所。本当は地下鉄4カ所でやる予定でしたけれども、停まってしまったので、1人は地上に出て2階建てバスを爆破したと。

こう見ますと、やはりどう考えても、これがモデルになっているとしか思えないわけであり。テロリストというのは過去の事件をよく分析して行うものであります。そうすると、この後に起こった列車爆破事件というのは、やはり地下鉄サリン事件を参考にして行ったと思われる。

この地下鉄サリン事件であります。この後、私はアメリカやイギリスやフランスの治安機関や、あるいは研究機関等に行って、当時はNBCテロと言っていました、ニュークリア、核ですね、Bはバイオ、Cはケミカル、NBCテロ対策について教えてくれという話を、この2年後ぐらいに各国に聞いてきました。そのとき言われた言葉が、「君は何を言っているのかね」と言われました。「あなたの国は経験したんでしょう、こっちが教えてほしいくらいだ」と。日本は当時、何の対策もしてませんでした。欧米諸国においては既に現場の警察や消防に除染装置や、あるいはパムといったものがもう既に配付されていました。日本の対応がいかに遅かったか、非常に身を持って感じたわけであり。ます。

さて、先ほどの都知事、あるいは総監の話にも出ましたが、今年と来年というのは日本にとってものすごく大変な年であります。なぜ大変なのか。既にちょっと薄くなっているところは終わりましたが、G20サミット、つい先月末、大阪で行われました。私はそれをちょっと視察してきました。3万人の警備、史上最大の警備と言われました。後ほど、このお話はしますが、関連の大臣級会合がまだ残っていますし、それから今、ちょうど2020年の1年前の諸行事というのがたくさん、テスト大会ですね、行われているわけであり。ます。

これがG20サミットの、まだ残っている大臣級会合ですね。それからテストイベント。こ

これは組織委員会のホームページにも載っていますし、あるいは、これから1年前のイベントで、いろんな自治体や民間団体でも1年前の行事ということで、恐らくいろんな行事をされるんだろうと思います。それから、これは東京都のホームページですが、1年前のセレモニーということで24日に開催すると。

それから隣の神奈川、横浜では第7回アフリカ開発会議、T I C A D 7というのが8月末に開催されます。これは意外と大きな会議でして、アフリカ諸国から首脳、50カ国ぐらいから首脳が集まる会議であります。アフリカ諸国にはアルカイダや、あるいはI Sの活動をしている国もたくさんあるわけで、やはり注意しなきゃいけない会議であります。

それから、ラグビーワールドカップが9月20日から11月2日、期間が長いわけですが、日本で開催されるわけでありまして。ご案内のとおり、全国12都市、東京をもちろん含めて12都市で開催されるわけでありまして。これまた要人も来ますし、大きなイベントでありますので、大変な警備が必要となるということでありまして。

私もつい最近まで知りませんでした。ラグビーのワールドカップというのは世界3大スポーツ大会の一つだそうです。オリンピックとサッカーのワールドカップ、そしてラグビーのワールドカップ、それほど重要な大きな行事だということでありまして。この警備も非常に大変ですし、期間が長い、あるいは全国各地で行われるということ、非常に大きな警備になるんだろうと思います。

今年最大の警備は、私はこれだと思っています。10月22日、即位礼正殿の儀、祝賀御列の儀及び饗宴の儀。195カ国の元首などに招待状を送っております。

前回の平成2年の即位の礼を見ますと、160カ国、機関の要人が参列した。このうち、元首級の来日は66カ国、王族、それから首相級は53カ国ということで、120カ国近くから要人が来日したということで、G20の警備以上に恐らくなるんだろうと思いますし、22日には祝賀御列の儀、パレードがありますので、前回を見ますと3万7,000人体制ということで、大変な警備だったわけでありまして、それ以上になるんだろうと思います。

このとき、何でそれほど警備が問題になっていなかったのか、要人の来日で。考えてみれば、このときのテロの脅威って、あまりなかったんですね、国際テロの脅威って。今とは全く違う。当時はむしろ極左対策はありましたけれども、国際テロの脅威はほとんど考えなくてよかったということで、そこが全く違うということでありまして。これからお話ししますが、ソフトターゲットの警備というのはこのときはあまり考えずに済んだということです。でも、

今回は違うということです。都心のど真ん中をパレードするわけでありまして。前回の大喪の礼のときは中央自動車道の切通しが爆破された事件や、最初に天皇陛下が伊勢神宮に向かわれたときに、親謁の儀ですが、そのときに横浜駅付近の新幹線の擁壁が爆破されたという事件が起こっております。

それから11月にはローマ法王が来日する。天皇陛下と会見されるかもしれない、あるいは東京ドームでミサが行われるかもしれない。広島、長崎を訪問されるかもしれないということで、これまた大変な警備になるということでもあります。

やれやれ、2019年が終わったなと思うと、もう3月26日から聖火リレーがスタートするわけでありまして。日本は完全にここからオリンピックモードに入って行くわけでありまして。聖火リレーのゴールはいつですかと、いろんなところで講演するときに聞くわけですが、これは、とりもなおさずオリンピックの開会式であります。すなわち、開会式まで日本中のどこかで聖火がリレーしている。最終地点は東京の開会式ということになるわけで、それまでずっと気が抜けない警備が行われるということでもあります。

先ほど都知事から出ましたが、381日、間もなく365日と、1年前になるわけでありまして。東京以外でも、千葉、埼玉、神奈川、静岡、北海道、宮城、福島、山梨などでも開催される。聖火リレーは47都道府県。それから、各国選手団の練習地、休養地、恐らく東京都内にもたくさんそういう練習地や休養地が設定されると思いますし、東京都内の観光地にも観光客がたくさんやってくるということになるわけでありまして。

さて、G20サミットについて、ちょっとお話しをしておきたいと思います。これは大成功でありました。私も6日間、向こうに行っておりました。毎日の様子を観察しておりました。3万人の警備というのはなかなかすごいですね。大阪市内の辻、辻には警察官が24時間立っているというような状況であります。大阪市内に要人がみんな滞在していましたので、特に27、28。27に大体、要人が入ってきて、28、29とサミット。29日から30日にかけて、皆さん帰国していったということで、4日間、大規模な交通規制と警備態勢が敷かれたわけがあります。

懸念されたのが、高速道路を全部止めるということで、一般道がものすごく混雑するんじゃないかということで、かなり心配されたわけでありまして。26日、要人が入ってくる前日の夜に乗ったタクシーの運転手は、「一般道が混んで仕事にならないから4日間休もうと思っています」と言っていました。ところが、26日、あけてみると、大阪市内の道はがらがら。日経

新聞によると 51%の自動車の総量抑制をしたと。半数以下であります。私も 27 日はタクシーに乗ってホテルからNHKまで行きましたが、全く渋滞はなしということで、スムーズに。それから、27、28、29 と、私はプレスパスで実は行っておりましたので、IMCという国際メディアセンターというのが会場のすぐ横に設けられていた、会場と同じ建物であります、設けられていたわけですが、メディア用のバスが大阪市内の 8 カ所から出ていました。これまた全く渋滞せずに 3 日間とも会場まで行けたということで、一般道も本当にガラガラだったということでもあります。

その写真をちょっと先に見せまじょうかね。これはインテックス大阪。下がメディアセンターですね。各国から、今回は 29 カ国、それから 8 つの国際機関からトップが来ましたけれども、メディアも各国から来ているわけであります。こういった規制が行われている。上のほうは、これは咲洲に入る入り口のところですから、かなり厳しいチェックが行われていました。それから下のほうは、私が泊まっていたホテルの近くですが、真ん中に警察官がいるのがわかると思いますが、これがまさに昼夜問わずいます。この付近には、私の滞在していたホテルの付近には要人は泊まっていないので、要人の泊まっているホテルはもっとものすごい警備をとっていたということでもあります。

これが移動中の写真であります、ご案内のとおり、ほとんど車は通っていないということです。右上が、これが実は交通規制をしているところです。近くに要人のホテルがありますので、要人が出発するまで、一時的に交通規制をしています、交通規制をしているところですら、渋滞はしていない。これはすなわち総量が、自動車の総量が極めて少なかったということだろうと思います。それからよく見ると、ご覧のとおり、路側というか、駐車している車がほとんどないということでもあります。ですからスムーズに交通ができるということでもあります。

2 日目に乗った、交通規制がかかっているときに乗った、失礼、27 日ですね。だから交通規制が始まってから乗ったタクシーの運転手さんは、こんなに空いてると思わなかった、非常に仕事がしやすい、かなりの売り上げが上がったと言っておりました。その翌日に乗った運転手さんは、休もうと思ったけど、これだけ空いてるので仕事に出てきた、かなりの売り上げが期待できるというようなことで。すなわち、大阪のタクシーの運転手ですら、こんなに皆さん、府民の皆さんが交通規制を守ってくれるとは思わなかったというのが実態だろうと思います。

その要因としては、やはり大阪の経済界あるいは産業界が積極的に協力したという要因が大きいんだらうと思います。それから、府、市が協力して市民に呼びかけた。特に産業界の場合は積極的に休暇をとらせたり、あるいは在宅勤務というような措置をしたということで、そういう対策が大きかったのかなと思います。

次、おそらく試されるのが東京の10月22日前後、要人がたくさん入ってくる、このとき東京もおそらく総量抑制をしないと、かなりの数の要人が往来することになりますので、東京もそのときに試されるだらうと。これは次の、来年のオリンピックにつながっていくということだらうと思います。ただし、オリンピックの期間というのは非常に長いので、こういった総量抑制というのがどこまでできるのかというのは非常に難しい問題だらうと思います。

今回の史上最大の警備、28カ国9機関、1カ国、メキシコだけは外務大臣が来ましたが、ほかは全部トップです。3万2,000人、大阪府警が1万2,000人、特別派遣部隊、全国から特別派遣部隊が1万8,000人で3万人、これで大阪を守る。

それから京都、兵庫ですね、京都はなぜかというと、夫人のプログラムが京都でありましたので、京都1,000人、両方で2,000ですね。それから兵庫は実は専用機が兵庫、神戸空港に駐機するという事なので、兵庫はその警備が入っているということです。そのほか、東京を初め、全国各地で、ここが今非常に大きいところなんです、重要施設やソフトターゲット対策で警戒したということです。この3万2,000という数字がいかに大きいかということ、下の伊勢志摩サミットが2万3,000人、それから九州沖縄サミットが2万2,000人、北海道洞爺湖サミットが2万1,000ですから、今回の規模が相当大きかったということがわかると思います。しかし、無事に何事もなく大成功のうちに終わったと。

なぜソフトターゲットや首都でも警戒しなきゃいけないのかというのは、実は2005年7月にグレン・イーグルズサミットのときにロンドンで同時多発テロ事件が起こっています。これ以降、会場周辺と、それから都市の警備、首都の警備というのを同時にやらなきゃいけないということで、二正面作戦をとったわけでありまして。

最近、伊勢志摩サミットの時、もうちょっと前からそうなんです、実は多正面作戦でありまして、これはどういうことかということ、会場と、それから全国の主要都市、大都市でどこでも起こる、テロは起こるということで、大都市。それから鉄道、空港、主要ターミナル駅、大規模集客施設、観光地、こういうところでテロが起こる可能性がある、こういうところの警戒もしなきゃいけないということでありまして。

これは大阪の日経新聞が出したやつですけれども、総量 51%減ということで、レガシーを生かせるかと。大阪のレガシーをいかに生かせるかという意味だったんですが、やはりこれから、先ほど言ったように 10 月 22 日や来年のオリンピックで、今度は東京が試されてくるということでもあります。

これは街中の様子ですが、ごみ箱ですね。それから、コインロッカーが閉鎖されてましたが、そのかわりに J R 西日本では手荷物預かり所を設けていました。右の上のほうに、身分証明書を確認いたしますということで、身分証明書を確認して、手荷物を預かったということでもあります。私は中の荷物検査までしたほうがいいと思うんですが、一応、J R 西日本では身分証明書の提示と確認ということをやっていたということです。

それからこれは、一つおもしろい事例、おもしろいと言っちゃいけないですね、NHK から、東京に戻ってきたら電話がありまして、女子トイレのサニタリーボックスが撤去されて非常に女性は困ったというようなことで、ツイッター上でいろいろ情報が出ていたようで、やっぱりその部分も考えなきゃいけないだろうということで、やはりオリンピックに向けて、オリンピック期間は長いですし、夏場でもありますので、こういったことも考えなきゃいけないのかなと思ったわけでもあります。

私は男でありますし、あまりこういうことに詳しくないものですから、何で私に聞いてくるのかなと思ったんですが、テロ対策としては、やはりごみ箱を撤去するというのの一つの有効な方法であります。なぜなら、これは 1995 年のオウムですが、新宿駅の丸ノ内線のトイレの個室の中に青酸ガスの発生装置が仕掛けられたという事件が現実に行っているわけがあります。ですから、こういう死角になるようなところはなるべくつくらないというのが鉄則でありますので、こういった問題にも、オリンピックに向けて対応しなきゃいけないのかなと思います。

やはり男性の視点ばかりで考えるのではなくて、やっぱり女性の視点でセキュリティーを考えるとというのが非常に重要だなというのを改めて感じた次第であります。オリンピックに向けても、女性の視点でのセキュリティーというのはやっぱり一度洗い直しておく必要があるかなと感じました。

最近のテロ情勢について、実はお話をしようと思ったんですが、あまり時間がございませんので、もし最後に時間がありましたら、一部ご紹介したいと思いますが、既に皆さん方のお手元に配っておりますので、お時間があるときに見ていただければと思います。このエッ

センスだけ、ちょっとお話をしておきます。

最近のテロの発生の構造というのは過激化というものです。過激化というのは、刺激されて、インターネット上や、あるいは過激なモスクでの説法などで刺激をされてテロをやってしまうのを過激化と言っています。

ホームグロウンというのは何かというと、外国系の人間が生まれたその国でテロをやるとするのがホームグロウンです。これはどこから出てきたかということ、先ほどご紹介した 2005 年のロンドンのテロ事件のときに、パキスタン系の 2 世が実はほとんどの犯人だった、犯人のほとんどがパキスタン系の 2 世だったわけでありまして、彼らはイギリスでほとんどが生まれていますし、正規の滞在資格あるいは一部国籍も持っている人間でありまして、そういうのがテロをやった。外国人ではないわけですね。自国民によるテロだったということでありまして。

それから、ローンウルフというのは最近のテロで非常にはやっているわけですが、一匹狼であります。たった一人でテロをやるのがローンウルフであります。ほとんどがインターネット上で刺激を受けて、自分でテロをやらなきゃいけないと思って、計画してテロを起こすというのがローンウルフであります。ローンウルフによる事件がなぜ多いかといいますと、これは摘発が非常に難しいんです。テロ対策としてとても有効だったのが通信傍受みたいな手法なんですけど、実は通信が発生しないから通信傍受という手法は全く使えないということでもあります。

後ほどその仕組みについてお話ししますが、アルカイダも構造的には、もう亡くなりましたが中心にビンラディンがいて、それからアルカイダの中枢部、これはアフガニスタン戦争、ソ連と戦ったアフガニスタン戦争ですが、参加した連中や、あるいはアフガニスタンの訓練基地で訓練を受けた連中が第 1 層として中心部にいる。それから世界中にイスラム系のテロ組織がありますので、それがネットワーク化しているということでもあります。しかし、赤のギザギザで示しているのがテロ事件でありますけど、周辺部でほとんどが起こっているわけがあります。これがいわゆる過激化層であります。アルカイダやアルカイダ系の組織とは直接関係ないんだけど、アルカイダやアルカイダ系の組織に刺激されて、インターネットだったり、あるいは説法だったり、そういうものに刺激されてテロをやるとというのが第 3 層、4 層であります。こういう連中によるテロが非常に多いということでもあります。あまり組織的ではないということですね。



ISも全く同じような構造をしています。バクダディがいて中枢部がいる、これは中枢部は実はイラクやシリアに置いてあったわけですが、皆さん、もうISの脅威はなくなってるとお感じになっていると思います。報道でもISという言葉がほとんどもう出なくなりました。じゃあISはなくなったのか、イラクやシリアにいたISはなくなったのか。少なくともイラクやシリアにおいてはISはほとんどなくなりました。じゃあそこにいた連中はどこに行ってるのか。世界中に拡散してるということでもあります。むしろ脅威の度合いは高くなったということです。

これはもともと外国人戦闘員としてシリアやイラクに集まっていたわけですが、各国から。日本からも行こうとしたやつがいたわけですが、つい最近、処分が出ましたけども、北海道大学の学生が行こうとしていたわけですが、ほかの国からは多くの若者がイラクやシリアに、ISに参加しています。それはヨーロッパ諸国だったりします、フランスやドイツやイギリスや、あるいはアフリカ、中東諸国ももちろんです。それからアメリカからもたくさん行っています。実は東南アジアからもたくさん行っています、インドネシア、マレーシア、フィリピン。彼らが今、帰還しています、帰ってきているわけです。すなわち、シリアやイラクからISが消えたわけではなくて、世界中に拡散を始めているということでもあります。世界中の治安機関は、一番の脅威が彼らの脅威だと思ってます。いわゆる帰還兵によるテロというのを一番警戒してる場所でもあります。

それと同時に、青のギザギザ、これはISに関連した事件であります、ほとんどがシンパ触発層で起こっているというのがわかると思います。よくテレビを見てると、ISが犯行声明を出したというようなテロ事件がよく報道されると思います。ISは何月何日、ここでテロをやりなさいなんていうことは指示していません、一切。勝手に自分たちが考えて、ISの書いている、あるいはISに近い連中が書いているホームページや、いろんなもの、資料を見て、自分もテロをやらなきゃいけないと思って、自分で考えて、たった一人でテロを起こす。成功すると、ISが自分たちの戦士がよくやったとって声明を出す、こういう構造であります。すなわちコントロールも効いていないわけです。そういうふうにして今のテロは起こっているんだというのを頭に入れておいてください。すなわち、そういう構造で起こっているからこそ、今のテロというのは極めて検知、探知しにくい状況にあるということです。

昔はテロ組織ってこういう形をしていたわけですね、ピラミッド状で、丸はいわゆる支配

地域、テリトリーであります。面、線から点の展開へということを経ュメにも書いてありますが、これはどういうことかという、丸は支配地域で、支配地域の周りでテロをやることによって支配地域を拡大していく、これが面の展開であります。それから赤い線で矢印が引いてありますが、首都や大都市へ行って爆弾テロをやって戻ってくる、これが線の展開であります。昔はこうしてテロが起こっていました。すなわち出所がよくわかっていたんです。このテロ組織も誰がリーダーで、どういう構成員かというのもよくわかっていた。ところが今のテロというのは、先ほど言ったようにインターネットで過激化してテロを行いますから、点で展開するわけであります。

きょう、ニューヨークでAというISのインターネットサイトを見て過激化したやつがテロをやったと思ったら、明日、明後日、パリでBというSNSで過激化したやつがテロをやる。こういう構造になっている。すなわち、Aというサイトを見たやつと、Bというサイト、SNSを見たやつとは全く関係がない。ですから、当局も探知のしようがないということでもあります。こういうふうにして、今のテロは起こっているんだと。

そうすると、もちろんインターネット、日本でもつながっています。日本でも、たった一人だけ過激化したら、日本でもテロが起こることになるわけです。ですから、日本は関係ないというのは、全く言えないということでもあります。

次に、ソフトターゲットであります。これもビデオをご覧になるとわかるんですが、実は、最近のテロというのは、複数の国籍の外国人が集まるソフトターゲットというのが狙われています。これは、国際空港。国際空港には必ず複数の国の外国人が集まっています。実際に、ベルギーの空港でも起こりましたし、トルコの空港でも起こっています。それから、国際的な観光地、これはニースの事件が有名ですが、あるいは、ロンドンのロンドンブリッジ、あるいは、ビッグ・ベンの近く、周り、これは必ず観光客が行くようなところ。それから、マドリードの繁華街というか、これも外国からの観光客が必ず行くようなところ、サグラダ・ファミリアもテロの対象になっていたと言われてはいますが、そういう国際的な観光地、リゾート地、あるいは国際的なイベント、先ほど言いましたように、ニース、花火大会に車が突っ込んだわけでもあります。これは後ほど話しますが、こういった国際的なイベントのときにテロが起こる。

これはなぜかという、多くの国籍の外国人が被害に遭うと、必ずその国で大きく報道されます。例えば10カ国の人巻き込まれたら、10カ国のメディアで大きく報道されるんで

す。そのほかに、CNNやBBC、アルジャジーラといった国際的なメディアでも大きく取り上げられる。彼らの狙いはそこにあります。

振り返って考えますと、オリンピックは、多くの外国人の集まる巨大なソフトターゲットの塊であるということでもあります。ですから、今、まさにオリンピックは警戒をしなければいけない対象であるということでもあります。

今、ニースの話をしました。手法の多様化、日本では秋葉原でありましたが、彼らが秋葉原を認識していたかどうかわかりませんが、ニースのテロでも、花火大会の観客の中へ突っ込んだ後、銃撃を行ったり、あるいは、ほかのテロ事件でも車で突っ込んだ後に、ナイフで人を殺傷するというような事件が続発しています。テロの手法としては、このニースがはしり、最初であります。このプロムナード・デ・ザングレという、もうとてもいい場所です。このパッケージのこの表紙の写真がこのプロムナード・デ・ザングレであります。これは、実は私が撮ってきた写真であります。こんなにいいところでテロが起こり、84人が死亡して、200人以上が負傷した。トラックで突っ込んでですよ、トラックで突っ込んだだけで84人死んでいるんですよ。ですから、これ以降、車を使ったテロ事件というのは続発することになるわけでもあります。

スリランカにおける最近のテロですが、これはちょっと特徴が違っていて、かなり組織的なテロです。私はちょっとびっくりしたんですが、スリランカで何で起こったのかなど。なぜかという、スリランカというのは、非常に日本に似ているんですね。8割が仏教徒の国なんですね、実は。かつてスリランカでは、タミル・イーラム解放の虎という、LTTEが凶悪なテロを起こしていましたが、この10年間、本当に安定していた。そこで起こったテロということで、6カ所、キリスト教の教会と高級ホテルです。教会は、これはもう紛れもなくキリスト教徒を狙ったものですし、高級ホテルは外国人を狙ったものであります。死者350人以上と、負傷者は500人以上という事件で、これはちょっと組織的なテロ、今まで説明してきたローンウルフとはちょっと違うテロであります。

ただ、だんだん日本に近づいてきているなというのがわかります。最近のテロというのは、警察や治安機関のみでは防げません。こういう形で発生していますので、警察の警備、公安では防げない。警察のいろんな部門が協力、あるいは、警察だけではなくて、いろんな機関が協力しないとできない。それだけではなくて、自治体や事業者、国民が協力しないと、なかなか防げない状況になってきているということでもあります。

続いて、日本に係る脅威であります。

日本のターゲット化、それからプレゼンスの上昇ということがあります。まず、日本のターゲット化ですが、この2015年の事件以来、日本はテロのターゲットだということになっています。彼らはこのときに、I Sは日本政府へのメッセージとして、「我々は戦争に参加しているつもりは全くないわけではありますが、勝ち目のない戦争に参加するという、おまえの無謀な決断のために、このナイフは後藤を殺すだけではなく、おまえの国民がどこにしようとも虐殺をもたらすだろう」というメッセージを出しています。それから、これがそのときのダービクという彼らの機関誌であります。彼らの機関誌では、こういうことを言っています。この1文って非常に重いと思っっているんです。日本は標的として優先度は高くなかったと言っっているんです。これまではねと。これまでは優先度は高くないけどねと。今は違うよということを示しているわけであります。日本は標的として優先度は高くなかったと言っっているんですね。これは非常に重い文章でありまして、それまでは、日本は我々とは関係なかったけど、今や、あんた方はターゲットだよということを示しているわけであります。全ての日本国民が今やイスラム帝国の戦闘員らの標的となった。イスラム帝国の剣は、既にさやから抜かれ、日本の異教徒に向けられていることを知るべきだと。

このダービクという雑誌はオンライン雑誌ですので、世界中の信奉者が見ているわけです。その中で、こういうことが書かれているというわけです。そのほかにも、このダービクの中では、8号、11号、12号においても、日本はターゲットだということが書かれているわけであります。今、ダービクという雑誌はなくなり、ルーミヤという雑誌に変わっていますが、こういう機関誌上で、何度も日本はターゲットだと取り上げられているということであります。

スリランカにおける今、テロ事件のこの首謀者が、実は兄は1カ月間、日本で過ごしていたという証言をしていると、このテロの前に。それから、ダッカ事件、これはダッカで日本人も殺害されましたが、これが何で衝撃かという、このときに、日本人7名が亡くなっっているわけであります、「I 'm Japanese. Don't shoot」と。「私は日本人だ。撃たないでくれ」と言っただけでも、すぐに殺害されたということであります。昔だったら、日本人は我々の戦いに関係がないから出ていけと言われたかもしれない。でも、今やそういう立場ではなくなっったというのが明確に表している事件であります。

すなわち、この犯人たちというのは、日本は敵である、ターゲットであるということをよくわかっっている。ダービクなどで、よくわかっっている連中だったわけであります。これもちょっと

とオウムみたいに似ているんですが、この犯人たちというのは非常にインテリです。留学経験があったり、大学を出ていたり、大学院を出ていたりしています。実は、この事件には、日本にいた准教授、立命館大学アジア太平洋学部に属していた准教授がかかわっていたと。実は、この人物はヒンズー教徒だったんですが、日本にいるときに改宗しているんですね。非常に何かいやらしい事件なわけです。実は、この准教授がこのバングラデシュの実行犯たちを勧誘していたんじゃないかとまで言われているわけでありまして。すなわち日本に非常に近くなってきているということが、これでもわかると思いますし、あるいは、バングラデシュの今の事件ですね、日本人の大半はすぐに殺害されていたということで、まさにターゲットが日本ということが明確だと思います。

それから、アルジェリアの人質事件でも、日本人は処刑されていたというような証言もあるわけでありまして。すなわち日本はターゲットであると。一方で、これからプレゼンスがどんどん上昇していきます。オリンピック・パラリンピックは完全に今、東京モードに入っています。それから、2019年、国家的・国際的なイベントがめじろ押し。これはどういうことかということ、先ほど警備の話だけではなくて、日本のプレゼンス、存在感がどんどん上昇していくということになるわけでありまして。

今、世界は東京モードに変わっています。世界中で今、東京オリンピックの選手を選考するスポーツ大会が開かれる。そのたびに、そのアスリートたちは、東京を目指すという言葉を使っているわけ。日本を目指すという言葉を使っているわけです。ちょっと前まで考えてみれば、リオのオリンピック前、日本のアスリートもリオを目指すと言っていた。それから、冬のオリンピック、ピョンチャン、ピョンチャンを目指すと言っていた。今、同じようなことが、世界中のアスリートが東京を目指すと言っているわけですよ。日本人が思う以上に東京という言葉が世界で使われている。すなわち、東京のプレゼンスがどんどん上昇していくということを意味しているわけでありまして。

それから、最近、先ほど言った、国家的な、あるいは国際的な行事がめじろ押しです。これは、BBCで報道されたものですし、これはアルジャジーラで報道されたものです。それから、これはCNNですが、アルジャジーラでも同じような報道がなされています。あるいは、この間のイラン、日本との会談でもアルジャジーラでも報道されている。こういうアルジャジーラは、中東諸国で流れているわけですから、こういう報道がなされるたびに、これはテロリストも見るわけです。日本のプレゼンスがどんどん上昇していく。すなわち、テロ

の脅威が上昇するというものではありません。2020年まで、このテロの脅威は下がることはないということです。

じゃあ、日本におけるテロの脅威、どういうものがあるのか。外国から入ってきて、テロをやる。それから、日本国内の外国人が過激化する。あるいは、日本人が過激化する可能性がある。昔は、この外国から入ってきて日本でテロをやるというのは、非常に難しかったんですね。9・11の主犯であるハリド・シェイク・モハメドは、日韓ワールドカップの際に、日本でのテロを計画したけれども、できなかった。それは、インフラがなかったからだ。インフラって何かというと、仲間です。じゃあ、仲間は何をするのか。二つです、主に。ターゲットを選定する。これは、やっぱりそこに住んでいないと、なかなかターゲット、どこが効率的なのかってよくわからないわけですね。ターゲットを選定する。それから、もう一つは武器。爆発物を調達する。今、この二つとも全く簡単にできてしまう。

ターゲットの選定ですが、地球の裏側からできます。グーグルストリート。今やグーグルストリートは、建物の中まで入ります。地球の裏側からある程度もうターゲットを選定することができる。あとは、ぽんと入ってきて、1回、2回下見をするだけでも十分。

爆発物です。日本は武器がないと思う。そのとおりです。武器を入手するのは極めて難しい。しかし、爆発物は簡単につくれます。今や高校生、大学生が簡単につくっている。この間、名古屋の大学生が摘発され、その関連で東京の高校生も摘発された。実は、市販されているもので爆発物ができてしまう。しかも、強力な。この製法自体も、インターネットに載っているということです。

ですから、外国から入ってきて、テロを行うというのは、昔よりハードルが下がっています。

それから、もう一つ、私が最も注意しているのは、ここです。テロではないけれども、テロ類似事案、ローンウルフ型というやつです。古くは、ゆりかもめの国際展示場駅にT A T Pという、さっき言った簡単にできる爆発物を高校生が仕掛けた事件というのがあります。これは夜中に仕掛けたので、被害者は出ませんでした。それから、ずっと西武線の爆破未遂事件だとか、あるいは、皇居に硝弾を撃ち込む。彼は、A N F Oという爆発物を横浜港に500キロ、備蓄していたのか、隠していたのかわかりませんが、つくって沈めていた。それから、東海道新幹線内の自殺未遂、焼身自殺。これはまかり間違えば、大惨事になっていた可能性がある。それから、東海道新幹線内の殺傷事件。それから、最も注目しているのは、宇都宮

の連続爆発殺人未遂事件。お祭りの行列の通る横で、爆発物を爆破させた。それから、これは一番新しい事件ですが、竹下通りで車を暴走させた事件。

東海道新幹線の焼身自殺ですね。それから、これが宇都宮の事件です。まさに、圧力鍋爆弾を爆破させた事件であります。日本でも起こっているわけで。ちょっと間違えば、子供たちが大変多く犠牲になった可能性があるということです。それから、東海道新幹線の殺傷事件。それから、名古屋の学生のT A T P製造事件。竹下通りの事件。竹下通りの事件、最近わかりましたけれども、イスラム関連の書籍を購入していた。テロ情報も収集していたということが、最近明らかになっています。

ニースの事件以降、車を使ったテロ事件が増えているということです。このボラード、今、警視庁を初め、一生懸命推進してくださっていますが、ボラードをつけるというのは、一つの有効な手法だと思います。これが事故のあったニースの海岸です。今、こうしてボラードがたくさんついています。

それから、ドローンですね。やはりドローンも警戒をしなきゃいけない。官邸ドローン事件もありました。彼は、原爆を映していたりしたんですね。ドローンって、網で捕まえているんですね。何と原始的なことと、みんな思うわけですね。しかし、これが一番、今のところ有効な方法なんですね、実は。なぜか。ドローンには何が乗っかっているかわからないんですよ。爆発物かもしれないし、化学物質かもしれない。あるいは、放射性物質かもしれない。実際に官邸ドローンは、官邸に落ちたドローンは、放射性物質、微量の放射性物質を含んだ土が、これは福島のと土なんです、乗せてありました。そういうものを墜落させてしまうと、大惨事が起こる可能性があるんですね。ですから、ドローンというのは捕獲が原則です。網で捕まえて、極めて原始的だと思うんですが、これが大原則です。今は、警視庁もいろいろ考えまして、ジャミングという電波妨害装置を使って、なるべく速度を遅くしたり、あるいは、そこへ制止させて、この網で捕まえるというような対策をとっている。

じゃあ、我々には何ができるのかということ、やはり見たら通報するということが重要かなと思います。最近、実は、コントローラーでもコントロールしていないんですね。プログラミングをして、どこと、どこと、どこを飛べということ、そのとおりに飛んで帰ってくるんですね。ですから、余計対応が難しくなっているということです。

2020のセキュリティーですが、もう一度、19年、20年の状況というものを考えてください。大変ですねということです。20年になると、今度、聖火リレーから始まって、もうず

っとオリンピック・パラリンピックまで続きますよということです。それから、20年に伴う環境の変化、何が異なるのか、平常とオリンピック開催時では。それから、オリンピックは、多国籍の外国人が集まる巨大なソフトターゲットの塊であるということをもう一度認識してほしいと。それから、安全・安心な開催は、これは至上命題。なぜなら、それを掲げて誘致したからであります。世界各国からの選手、ゲストの安全・安心の提供は、ホストシティとしての責務であるということです。

それから、私は民間人ですので、あえて申し上げますが、今、見たように、19年、20年と、ものすごく行事がたくさんありますし、警察官はもう恐らく多忙です。例えば、地域のお祭りだとか、あるいは地域のオリンピックの行事だとか、そういうものに警察官を出している余裕も余りないと思います。じゃあ警備員を雇えばいいかと。警備員もいません、実は。オリンピックの組織委員会、警備JVで1万4,000から1万5,000、これを全国各地から応募するわけですが、これまた地方も含めて警備員がいない。

じゃあ、どうするんだと。例えば、今、デパートで、あるいは鉄道で、一つの駅で20人お願いしています、警備員を。これから言われるのは、10人に何とかなりませんかと。実は、オリンピックなので、30人に増やしたいんですけどと。いやいや、10人にしてくださいと言われます。じゃあ、誰がその分守るのか。これは、施設管理者であり、イベント主催者みずから守らなきゃいけない。責任を持ってセキュリティーについて考えるということをとらなきゃいけないということになります。

じゃあ、誰でもできるのかというと、そうではありません。例えば、大きなサミットがあるときに、既にこれはやっているんですね。JRとか、あるいは地下鉄をよく見ると、メトロをよく見ると、社員が警備という腕章をつけて巡回をしています。こういうことを、いろんな分野でもやっていかなきゃいけない。ただし、すぐにできるわけではないので、今から準備、トレーニング、どういう見方で巡回したらいいのか。何時間置きに巡回したらいいのかと。そういうものを今からトレーニングで身につける、あるいは訓練する必要があるということだと思います。

それから、連携も必要です。じゃあ、どこでテロは起こるのかと。ここが厄介なところで、どこで起こっても不思議ではない。人が集まる場所全てであります。それから、最近の特徴として、インターネットで、あるいはSNSでここに人が集まってくれというと、大量の人が集まっちゃうという現象が起こります。こういうものにも注意していかなきゃいけない



ということであります。

ここは、ちょっと飛ばしていきます。

ソフトターゲットのテロです。政府においても、こういった対策をとっていますということで。そのほかにも、セキュリティー上の課題がたくさんありますし、サイバーセキュリティーも考えていかなきゃいけないということでもあります。

ちょっとこのランサムウェアの話だけします。これは、2017年の5月にランサムウェアが各国で猛威を振るったわけですが、実は、これは情報系のウイルスであります。でも、情報系でも、制御系が止まりました。一つは、イギリスで手術ができなくなりました、オペ。なぜか。患者のカルテが取り出せなくなった、これで。だからオペが止まった。それから車の工場がストップしました。これはイギリスでも起こりましたし、日本でも起こりました、ホンダ。これはどうして止まったかというと、生産計画が取り出せなくなった。だから工場が止まった。情報系のウイルスでも、制御系も止まるんだということです。ロンドン、ソチ、リオ、ピョンチャンでも攻撃が行われたと。最近の大規模イベントは、リアル空間とサイバー空間の双方のセキュリティーが必須であるということです。

それから、訓練。訓練は重要だけど、これからなかなか難しいです。警察も忙しい。訓練ばかりしてられない。もうほとんど実戦が続いていきます、これから。2020年のオリンピックまでずっと実戦が続いていきます。ですから、訓練が本当は必要なんですけど、なかなか難しいですねということです。でも、訓練というのはなるべく多くやったほうが私はいいと思っています。

最後でありますけど、ちょっと長くなりましたが、いろんなところで講演するときに、最後にこのお願いをしています。セキュリティー共同体という意識を持ってください。市民の目が重要です。地下鉄サリンを思い出してください。これは、どういうことかということ、今、ここで爆弾が爆発したら、私も含めて、皆さんも犠牲になってしまう。だから、ここを利用する全ての人でこのセキュリティーを考えましょうということです。例えば、入り口のところで、都庁の入り口でもいいです、まず。入り口のところで変なやつはいないかなと。変な物を置いていないかなと、まず見てみる。エレベーターに乗って、この階に来たら、この入り口のところで、変な物置いていないかな、変な人いないかな。トイレに行ったら、変な物置いていないかなと、自分の目で見てみる。この部屋に入ったら、自分の席の周り、変な物置いていないかなと、変な人物が入り込んでいないかなと、自分の目で見てみる。ここに

参加している人たち全てがこのセキュリティーについて考える、責任を持つ。これがセキュリティー共同体という考え方です。運命共同体という言い方はしたくないので、セキュリティー共同体という言葉を使っています。

日本は、これを自然としていた時期があります。わかりますか。地下鉄サリン直後です。誰に言われたでもなく、私もやっていました。地下鉄に乗る前に、ホームで変な物置いていないかな、変なやついないかな。自分の目で見ていました。列車に乗ったら、網棚の上、座席の下、見ていました。これは誰にも言われていない。でも、自分を守るため。やはりその空間を利用する人全てがそういう意識を持って、その空間のセキュリティーを考えていくということが、これからいろんな行事を控えて、日本人に必要なことかなと思います。やはり市民の目。これはこういういろんな人がそういう注意を払っている中で、何かやるというのはなかなか難しいんですね。ハードルが高くなっていきます。ぜひやりにくい国だなという印象をつけないといけないと。

このバッジを見たことがある人はいますか。これはJRのバッジですが。「私たちもテロ防止に協力しています」。JRの方いらっしゃいましたよね。見たことありますか。ない。大多数が見ていないですね。これはとてもいいアイデアなんですね、実は。そういうツールとして、みんなが意識する。これは、マドリードの列車爆破事件の後に、国交省が音頭を取って、日本中の鉄道会社でこのバッジをつくっていたんですよ。これは、今、東京地下鉄とか都営地下鉄でもつくっています。横浜交通局でもつくっています。でも、誰も知らない。なぜか。キヨスクのおばさんがつけていたんですね、販売員の方が。目立たないように、目立たないように。意味がないでしょう。これは、目立つことに意味があるんですよ。目立たないように、目立たないようにつけていた。

でも、私はこれをパクって、全国でつくってくださいと言った。これは横浜APECのときに、セキュリティー意識を高揚するためにつくりましようと言ったら、当時の本部長がつくってくれて、いろんな鉄道の人とか、いろんな人がつけてくれた。それから、伊勢志摩サミットのときも、三重県警に言って、つくってくれた。何とオリンピックに向けて、今、東京都がつくっています。東京都共通アイコン、缶バッジもつくっています。どうも7月21日にお披露目をするということなので、皆さん、楽しみにしてください。とてもいいバッジができます。本当につけてみたいと思うぐらいのバッジです。ぜひ、21日にお披露目されますので、皆さんもつけていただければと思います。

最後に、先ほども言いましたように、みんなが注意をしていれば、防げる事件もある。実際に、1995年、オウムでしたが、ゴールデンウィークのときに、地下鉄の丸の内駅の丸の内線の構内のトイレに青酸ガス発生装置をつけた。しかし、清掃の方だったと思いますが、何か不審なものが置いてあるのに気づいて通報して、処理して、事なきを得たという事件が実際にあったわけですね。ですから、みんな意識していれば、未然に防げることができるということです。

最後に、皆さん方にお配りしてありますが、いろんな機関、あるいは、いろんなところに何をこれからしてほしいかというのをまとめてつくりました。ぜひ、皆さん方の参考にしていただければと思います。私どものホームページからもとれます。それから、世界のテロ情勢、ご参考になればと思います。

ちょっとオーバーしましたが、ご清聴ありがとうございました。

(拍手)

○治安対策担当部長 板橋先生、ありがとうございました。また、ちょっとタブレットの動作が不良でございまして、お見苦しいところが多々あったかと思います。皆様に事務局としておわびを申し上げます。大変申しわけございませんでした。

お時間許せば、少々質問の時間をとりたいと思うんですけども、よろしいでしょうか。もしどなたかご質問ございましたら。

よろしく申し上げます。

○おやじ東京(石綿) 父親たちというか、地域で子供たちの安全とか健全育成をやっている、おやじ東京の石綿といいます。

先ほど、講師の方からも国民全てが当事者意識を持って目を向けてというので、非常にわかりやすいんですけども、私の原体験からいうと、ちょうどもう半世紀近く前ですが、二十前ぐらいのときに、よく行っていた友人の家、都内アパートを持っていたんですけど、その1室でガソリンのにおいがするというので、某過激派のアジトになっていたという、アパート時代だから、大家さんが毎日のように廊下を掃除をしたりとかしていて、そういった何というのかな、日頃の活動がわかりやすくなっていて、気がつきやすかったんですけど、最近、例えば、私が住んでいる町ですと、54%の住民がマンションなんですね。オートロックでほとんど管理会社の方がたまに来るだけというような状況で、目を向けるといっても、なかなか難しい。

それと、例えば、町会とか、このおやじの会のようなところで、パトロールをやったりとか、何かいろいろなことをやりながらも、日頃からの関係をつくっていくことで、抑止的な活動をしてきたというんですが、ただ、逆に言うと、テロ対策とかというのが頭に来てしまうと、そういうものが何かぎくしゃくする関係になって、なかなか市民レベルの活動として、東京都が先ほどの缶バッジのような形でムーブメントをつくると、一定の効果があるのかなと思うんですけど、なかなかやりにくいと。そういう意味では、やりやすい何か我々市民レベルで日頃から取り組みやすいもの、確かに周辺を見るということもあるんですが、なかなか急いでいるときなんか、そこも難しい部分もあるしということで、日頃から取り組める、あるいは、地域で人々がいるときに注意することとか、何か心がけることで、安全対策につながっていく、テロ防止につながるということがありましたら、ヒントをいただければと思うんですが。

○板橋氏 ありがとうございます。

これは、まさに警視庁さんでも言っているように、いつも利用している空間って、そこを利用している人たちが一番よく知っているわけですよ。いつもと何か違うというのをやっぱり感じるのも、そこを利用している人たちだと思うんですね。そういうちょっと意識を持っていけば、あっ、これ何か普段と違うよねという感覚が多分出てくるのかなと。ただ、根本的にそういう意識を持っていないと、見過ごしてしまう。だから、まず、意識を持つこと。それから、いつもと違う状況があったら、周りと相談したり、あるいは、通報したりするということ。

それから、よく破れ窓理論とかというんですが、これは面白い事例だと思うんですが、あるビル管理会社の大手なんですが、その本社、オフィスに行ったら、廊下には何にも置いていない。階段にも何も置いていない。すごく綺麗なんですね。これは、実は、セキュリティーの一環でもあるんですね。置かれたらすぐわかる、何か置かれたら。だから、普段からそういう綺麗にしておく。

私は、この間、大阪もそうですし、それから名古屋、伊勢志摩サミットのときは名古屋の地下街とか、かなり危ないなと思って行ったんですが、地下街と違って割と物がすごい置いてあるんですね。だから、ここに何か置かれても、すぐわからないんじゃないのと。だから、なるべく綺麗にしておいたほうがいいよと。そうすると、普段と違う変化が発見しやすくなると思いますかね、日頃からそういう意識を持って、自分の周りを把握しておくとか、綺麗

にしておくとか、そういう身近なところからスタートするのかなと。

それから、あと、非常に日本ってやっぱり皆さん方のご協力もあって、これは世界的にも希有だと思うんですが、官民協力したテロ対策というといかついかもかもしれませんが、安全対策を推進していると。特に、私が成功していると思うのが、薬局とかとの連携で、爆発物の原材料になるかもしれないようなものを大量に購入しているときに、通報してもらえる。実は、それが端緒で、西武線の爆破をしようとした事件というのは未然に防げたりしているんですね。ですから、そういう普段からの協力って非常に重要だと思いますね。世界的にも、そういう例というのは余りないと思いますし、成功している事例かなと思いますね。

ですから、まず意識を持たないとスタートしないので、やっぱりまずみんなに意識を持ってもらう。それから、もし何か変化があったら、積極的に通報してもらったり、ほかの人と議論してもらう。何かここおかしいよねと。やっぱりおかしいなと思ったら、それで通報してもらうというような。最近、警察もなるべく通報してくださいと。それが空振りでも全然問題ないわけで、そういうところから始めるというのは非常に重要かなと思いますけどね。

いかがでしょうか。

○おやじ東京（石綿） ありがとうございます。

○治安対策担当部長 ほかにございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、板橋先生、本当にありがとうございました。

（拍手）

○治安対策担当部長 それでは、以上をもちまして、第17回東京都安全・安心まちづくり協議会総会を閉会とさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中お集まりをいただきまして、まことにありがとうございました。引き続きどうぞよろしく願いいたします。

午後4時17分閉会